

京都創造者大賞

「創造が生み出す伝統」

2012

大賞に葵祭を支える葵祭行列保存会、 賀茂御祖神社、賀茂別雷神社の3者に決定

京都創造者大賞

葵祭の伝統・文化を継承し、王朝時代の風雅を現代に伝える活動

葵祭行列保存会

賀茂御祖神社(下鴨神社)

賀茂別雷神社(上賀茂神社)



活動内容 賀茂祭(葵祭)は、賀茂御祖神社(下鴨)・賀茂別雷神社(上賀茂)両神社の例祭で、5月15日に執り行われる。起源は太古の昔、賀茂大神のご降臨に由縁し、日本の伝統・文化を今に伝える。1400年を超える長い歴史の中で幾度かの中断があったが、王朝の伝統は忠実に守られて来た。2000年から、民間団体による「葵祭行列保存会」が設立され、行列全般についての運営を行うようになった。

審査講評 京都三大祭の一つで、わが国の祭のうち最も優雅で古趣に富んだ祭として知られており、数少ない王朝の伝統が残されている。その伝統文化は1400年を超えて現代に伝えられており、まさに京都の品格を高めるブランドといえる。長年、国家的行事として執り行われてきたが、近年では行列の運営を民間団体が支えている点も評価。京都を代表する祭事として国内外に発信するとともに、日本の伝統文化を未来に継承し続けていただきたい。

京都創造者大賞顕彰委員会(委員長・千玄室・裏千家大宗匠)・京都府、京都市、本所では、今年6回目を迎えた「京都創造者大賞」の受賞者を決定し、9月10日に京都産業大学むすびわざ館において授賞式を開催いたしました。同賞は、京都府域における「京都ブランド」のイメージアップや京都の都市格向上に著しく貢献している個人や法人、団体、およびその商品や作品、技術、サービスなどを、オール京都により「創造者」として称え、その功績を国内外に発信することを目的としており、大賞をはじめ、「もてなし・環境」、「アート・文化」、「企業」、「未来への飛翔」の各部門賞の受賞者を選出いたしました。

応募状況

応募総数	264件 (自薦 55件 / 他薦 209件)
もてなし・環境部門	57件 (自薦 7件 / 他薦 50件)
アート・文化部門	82件 (自薦 22件 / 他薦 60件)
企業部門	86件 (自薦 18件 / 他薦 68件)
未来への飛翔部門	39件 (自薦 8件 / 他薦 31件)

京都創造者大賞事務局
(京都商工会議所 産業振興部内)

TEL 075-212-6450 FAX 075-255-0428
E-mail taisyo@kyo.or.jp

京都創造者賞

もてなし・環境部門

日本の食文化の継承と発展をめざした国内外での活動

NPO法人日本料理アカデミー



活動内容 日本料理を発展させるために、教育及び文化・技術研究ならびにその世界的な普及活動を行い、日本の食文化の振興に寄与することを目的として設立。日本料理コンペティションや海外料理人向けの京都研修プログラム、海外での日本食文化紹介事業、京都市教育委員会との食育事業など、京都から食文化を通じて国内外に日本食文化を発信している。また、日本の食文化の世界無形文化遺産登録に向けた活動にも尽力している。

審査講評 日本料理の伝統を受け継ぎつつ、常に改革を目指すためさまざまな事業を展開し、日本料理の世界に革新をもたらした。世代や店の境界を越えてつながり、食文化の新天地を開いていく。京料理のみならず「日本の食文化」を発信し、日本料理の発展のため尽力している点を高く評価し、もてなし・環境部門での創造者賞とした。日本料理にかかるとして、これからの展開に期待したい。

企業部門

四季折々の京都の魅力をポスターで発信する「I Love Kyoto」キャンペーン 株式会社京都銀行



活動内容 地域社会の1層の発展に向けて、京都を愛するところを広く人々の意識に育み、「歴史都市・京都」の素晴らしさを将来にわたってまもり育ててゆこうとの趣旨から、同キャンペーンを開始し、30年の節目を迎える。企業名を出さず、「I Love Kyoto」と題して、京都府下全域にわたる自然・歴史的遺産・伝統文化・人々の暮らしなどを四季折々の趣に託して表現したポスターは、385種類、約61万枚を数える。

審査講評 春夏秋冬の季節毎に3種類のポスターを制作し、京都内外の地域で京都の魅力発信。本キャンペーンは、京都の素晴らしさを再認識するとともに、それらを守り育てようという郷土愛を喚起する活動でもある。企業名を出さず30年にも回り続けてきた社会貢献活動を高く評価し、企業部門での創造者賞とした。この活動を通じて「歴史都市京都」を次代に引き継ぎ、京都の更なる発展に繋がることを期待したい。

アート・文化部門

京都府南丹市日吉町にて20年以上にわたる「かやぶきコンサート」活動を実施

ザイラー夫妻(エルンスト・ザイラー、カズコ・ザイラー)



活動内容 福井県から京都府胡麻の里(日吉町)に古寺を移築再建した「かやぶき音楽堂」にて、初夏と秋のシーズンにかやぶきコンサートを定期的に行い、全国各地はもとより海外からも聴衆が訪れている。4手のための連弾アンサンブルとして、演奏会、オーケストラ協演、国際音楽祭等その活躍はめざましい。また自然をこよなく愛し、胡麻の里で稲作りもする夫妻のライフスタイルは、多くの人々の共感を得ている。

審査講評 京都府南丹市日吉町のかやぶき音楽堂(国の登録有形文化財)で20年以上にわたる「かやぶきコンサート」を実施。開催回数は300回を超え、年間数千人の人々が聴きに訪れている。クラシックを身近なものとするため、ホールのない町でも寺社仏閣などで「コンサート」を行い大きな反響を呼んでいる。京都を拠点に活躍している両氏の活動を高く評価し、アート文化部門での創造者賞とした。今後も京都を代表する「アート・文化」として活躍し続けていただきたい。

未来への飛翔部門

ロボカップジュニア世界大会での活躍など、ロボットの設計製作を通じた次代を担う人材育成 京都教育大学附属高等学校 e+1(ZERO)チーム 電子工学部



活動内容 主に自律型ロボットを製作し、チームを結成してロボカップジュニアやWorld Robot Olympiadに出場。速く正確に動くサッカーロボットを目指し、機械設計、電子回路設計、組立およびプログラミングを行っている。2010年シンガポール世界大会出場を機に、3年連続世界大会に出場し、その技能等を先輩方から継承し現在に至る。京都教育大学附属小学校・中学校や、SSH生徒発表会等、校内・校外のさまざまな機会での活動内容について発表している。

審査講評 ロボカップジュニア世界大会で活躍し、京都の叡智を世界へ広く発信。同校は文部科学省より「スーパーサイエンスハイスクール」に指定され、科学の研究・技術の開発をリードする研究者・技術者の育成を目指している。様々な技術が凝縮したロボット製作を通じて同チームの活動は、まさにそれを具現化するものであり、未来への飛翔部門での創造者賞とした。京都の、ひいては日本の科学界を牽引する人材育成に広がることを期待したい。